832
97
305

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

七ノ侍社裏文記

832
37
305

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

○裝束之記

○主上御束帯之具　冊服事

一冊冠　紙ヲ以テ冊ノ形ニ作ル

一冊袍　黄櫨染　色ハ黄ニ赤ヲ加ヘタルナリ　夏ハ薄物　ウスノナリ云

冊紋　桐竹鳳凰　麒麟等也

一冊下襲　冬白ニ冊紋小菱　夏薄物冊色蘇芳

冊紋　遠菱

一冊袖　紅冊紋小菱　夏冊引ハキ　下ハ單ノ板引ニ

一冊單　紅冊紋四ツ菱

一表冊袴　皇裏織物出紋　窠霰　夏冬通用　或ル

一下冊大口　紅生絹

一冊檜扇　色蘇芳冊形

一冊襪　錦　金襴　赤地物

大正 7年 2月 2日 購求

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

右之分四方拜小朝拜節會
行幸内侍所神樂等
出御之時着神給之

○主上内々之神服

一神引直衣　冬白之神紋小菱
萎薄物青之神設三五ノ本
一紅うし袴　紅平絹紅生絹紅大口精好イ〻或セリヤウイ〻
一神檜扇　或八未廣　蝙蝠ニ云

此分者毎月朔日節句朝餉
内々之神恍或和琴神會始
以下猶内々常之紅袴也
一常之神小袖　皐平絹
萎神袷ハ惟分ニ着神

○主上神礼服

一玉冠　かねにてすのつゝ瑞珞をかくる
一神礼服　大袖小袖裳各緋色有浮文
一表神袴　以下如常
一神綬　和二筋有礼服帯之ニ筋
一玉珮　和右腋にさゝる物也
一神鞋　錦
一象牙笏　象牙笏臣下モ持
讃　當今即位服内裏　鷹司房輔公　左大臣紫之礼服牙笏
笏貝ハ常笏ニ異ル　幄屋着給
是ハ神即位之服着神也

○院中御束帯之具

一御冠 かうぶりの御うら錦

一御袍 黒紋菊丸地紋有り 黄ハうしの

一御下襲 冬白ハ御紋浮線綾丸 黄薄物裏色蘇芳四文透黄

一御袴 紅御紋菊 黄ハかりつ

一御草 紅御紋四美

一表御袴 白平織物御紋窠霰 或菊の丸

一下御大口 紅ハ丸ハ平織

一御鞋 赤色

此外御幸抔孔雀之時ハ御

猶着ハ之事一有ハ

○院中御衣冠

一御冠 ハくみの御 紐菊

一御袍 黒ハ御紋

一御袴 ハ草ハの内ハ三ツ丸 内ハハ丸ハ丸ハ

一御指貫 紫浮黄御紋藤丸 或ハ家地浮織菊御紋ハ

一御檜扇 或ハ蝙蝠

○院中ハ烏帽子直衣

一御烏帽子

一御直衣 冬白ハ紋ハ御の丸 黄ハ黄ハ御紋三ツ枝

御下ハ具ハ衣冠ハ如

○又

一御烏帽子

一御小直衣　御紋多ハ有

一御指貫　或ハ生絹御袴ニテモ此之天形常ノ御衣ハ時ニヨリ御ニテモ着御ノ事

○又

一御袴衣　白色くの御事ハ

一常御小袖　白平絹　裏ハ御裏又或綾　此惟も表ハ紋

一立上　右之ハ御ものとうにそれ今ノ御わと指分り見ハ先ノ金中ものとれ

○公方様出来ノ事ニ具ハ服装

一御冠　かうぶりのうけ松

一御靴　此紋ハ多ハ裏九ハ表紋ハ裏ハうもれ

一御下襲　右ハ白ニ此紋指せ人まくの九裏ハ裏ハ多すくの此紋を裏御袴ハ下ハ下ハ裏ハ或ハ下ハ裏ハ裏ハ此ハ惟ハ下ハ裏ハ

一御単　絵ハ惟ハ此ハ御袖ニ此単をかてを武ハ裏ハ裏ハ白ニ裏ハ

一表御袴　袴白ニ此紋窠ハ裏ハ裏ハ

一下の袴　紅生絹或ハ平絹裏ハ裏ハ

一御鞘　ハ裏ハ裏ハ裏ハ紋ハ裏ハ

一御剣

一御太刀　ホンダチ　ナガタチ

一御鍔剣　ホンダチ　上ハ御ハ金ハ　中ハ御ハ銀ハ　下ハ御ハ銅ハ

九合下ハ御細剣ハ裏ハ

○同御衣冠ハ裏

一山冠　山紐無紋

一山袍　或山垂衣　色白三山級深緑淡ノ九茶
青三山級三青だもそき

一指貫　山級ノ深もそき　ハ藤色の
山指貫を出ハ茶山の丹ノ

式後藤家ノ説ノ色ノ通ノ次ノ
深黄茶ノ色ノ通ノ級指貫紫
ハ白ノ紋ノ下ノ色茶山ノ色

一神檜扇　或山黄廣

○陵園ノ時

一帝冠　山ノ通ノ

一神袍

一束帯或草　或束帯ノ袖草を
付ケ居ノ通ノ通ノハ
草ノ通

一山指貫

一山指扇　ハ山黄廣
式時ハ山黄ノ通を組ハ
ノ

○神垂衣之具

一山烏帽子　山ノ通ノ

一山垂衣　色或黄深緑深茶前黄等
袍現板ノ深黄ノ色組板紫
大蔵院板前黄ノ色ノ下世ノ
蔵家ノ下陵ノ通ノ蔵
板ノ色布垂衣の丹

式行ノ通ノ山板ノ色ノ丹

一山束帯等　式時ハ白ノ

○又

一山烏帽子垂衣　山冠山烏帽子に結ん中
ハ山烏帽子

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

御小直衣之具

一烏帽子　三烏帽子ハ[illegible]

一小袿　[illegible]

一指貫　若狭守出雲の袴之

一束帯

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

同三日　[illegible]

音　上野　出家

六日　諸出家御祈祷

右之裏書

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

一冠　かんむりのことを

一袍　黒紋不用
　　袍之紋之事

一関白　雲之上間

一大臣　下ゟ者重位第異紋
　　家ゝ ゟ用

一大納言已下ゟ新　書者ゟ
　　式之家ゝの例ゟ考ル

一四位ゟ殿上間
一五位者ゟ殿前紋用ゟ殿上
一六位者ゟ殿前紋用ゟ地下
一六位緑袴　ミドリ　ロウ　ミドリ
　　六位ミドリ　有平袴　七位ミドリ　薄イコメ　御前
　　平納　ゟハ薄ハ青
一殿上藏人　極腐青色紋　毋尾長鳥　浮織
　　織切　時ゟ二腐モ青ク

一冠　かんむりのことを

一袍　黒紋不用
　　袍之紋之事

○袍之紋之事

一関白　雲之上間

一大臣　下ゟ者重位第異紋
　　家ゝ ゟ用

一大納言已下ゟ新　書者ゟ
　　式之家ゝの例ゟ考ル

一四位ゟ殿上間
一五位者ゟ殿前紋用ゟ殿上
一六位者ゟ殿前紋用ゟ地下
一六位緑袴　ミドリ　ロウ　ミドリ
　　六位ミドリ　有平袴　七位ミドリ　薄イコメ　御前
　　平納　ゟハ薄ハ青
一殿上藏人　極腐青色紋　毋尾長鳥　浮織
　　織切　時ゟ二腐モ青ク

○殿下未節　殿下衣冠

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

一下襲　表白之紋即蝶ノ丸
裏薄物又萩芳文遠美
関白已下標色殿上人ハ位六位已ノ者
之裏ハ薄物非色人ハ表白之平絹
裏平紋穀織ハ二藍織

一裾ハ此下かさねのすそなり

一大臣ハ一丈或ハ八尺公卿ハ九尺四位ハ七尺餘
長袴ハ六尺餘

一或此下かさねの上下を大帷子
なりて用ゆ故に袴ハ
用ゆるなり

一袖　近代略之

一単或大帷子を下襲と共に用ゆ

一大帷　表白裏白

○樫ノ木非蹴鞠用ル

一表袴　高倉家ニテハ中ニテハ山科家ニテハ行ヒジノモノトウシ
紋不用裏を用ゆ

一紋袴ニ霰若ハ亀甲ニ御武樫ノ木
聽ゆるなり

一紋藤丸ニ手かしわ
ゆるなり

一赤袴　紅生絹平絹ハ上ニ裏ハ生絹表ハ
御殿上人樫ノ木非蹴鞠用ル
以前ハ下ハ裏を表ハ裏
ハ表を裏中ハ表裏平絹
平紋
表袴ニテハ紋ハ是使ハ武官ノ輩多用ル
一韓　練貫若ハ白ハ武官ハ用ル平
絹紋ハ表ハ不用ル

一弓

一太刀、鍔、鞘、平鞘、櫃

環鈴、柏の毛皮、形色云

一平緒　紫袴　絆地

一石帯　有文石巡方九鞆三文石九鞆

馬瑙犀角水晶之人用し是ハ

以下様ニテも用し

○臣下之冠

一冠　ろくろ紫

一袍　束帯同

一直衣　色色之後漸漸の色

又ハ薄物濃ニテ色ぶしき

一公卿或聴禁之者之人平用し

一裳　八平緒或無文　或ハ有文

切或平緒者し

一袴　川〻寺武器

一草履　ろくろ紫

一長冠　鬢ヲ結ぶ時武家を養

若ハ袴ニテ云ハ武家も能形

武代袴器し仕

一武時ハ上ニ上ヲ上ヲ若

ろくろ紫

一板履　或赤漆

一指貫　濃色　常之人ハ地切

年ハ用し

地下之人平緒若ハ用し

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一烏帽子直衣　[illegible]

一侍従　[illegible]

一刺貫　[illegible]

一狩衣　烏帽子[illegible]

一裳束更衣之事

冒頭日　更衣是より後の夏

末頭日　更衣是より冬の夏

若此日限相延更衣[illegible]

一下着之事　白平絹　或わや

九月九日より　三月中　綿入

冒頭日より　五月冒之迄

五月　晴日より　八月中[illegible]

九月晴日より　八日之迄

大形[illegible]

一袴之御[illegible]

一殿上人　[illegible]

紅梅の[illegible]

[illegible]

○臣下礼服

一玉冠

一礼服　右神事神農之事わさを

一表袴　右同

一後一節　右同

一玉珮

一織錦

一笏　麻手

一直垂の義は右人倉乃家より
二前より付る也　此の赤お音
より付る家の故実なり

一直垂之事　内ゞ考申し
但近国之公家之直垂別之賞玩
之事ゝ子細有之也
信尋公信長公依番帰国之時連俗
紅直垂着玉ふ

一平緒之事　紫綾　絆綾　法事敬冥用
絆地　子細猶口傳伝之事

一鎧直垂云云　当時者用直垂
なると神と袴のすれをとゝり
て平たく遣を者用也
甲冑のと紀者也る直垂ハ
錦金綿等をとゝて御免
紀者し

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

○束帯着用之時　衣冠式加私分別

一下大口　右の袴をはいて腰の帯を前四つ結の内へ右の袴をたくしこむに指さげて帯のえをもろへ袴の内へ入なり

一草履　を式のごとく袖をはいて用ゆ

一沓　古式のごとくにて足を覆ふ半臂をはいて着ること

一表袴　後ろ四つ裏を指さげて前へ出す右の方袴の内へ入れ左の方を袴の内へ入れ四つ右の脇へ指さげて帯のえをもろへ袴の内へ入なり

一裾　内打ち中の縫わるる打合わせの方へ打目を左へ掛ける掛撓草

私云ふ御小横裏を中へして出中なる二ツ打ち二ツ左の脇打ち入行幸の供奉或ハ出物を行ふ時ハ裏を中へ裏を中へ打撓草の中下なる上へ掛さげ右・中指ハ二つ裾をはさみ中なる裏を中へして壁打ち二ツ撓草の打下なる撓草の中へ上へ通し掛さげ・立指ハ二つ裾をはさみ裏を中へして打ちもち撓草の中へ下なる上へ通し掛さげ右掛裾をはさみ裾のすそなる壁真中なる打折目を表の方へ出し折合目を左へ折て表陽陰二の心なり

一裾の長さハ五寸平川

公卿裾打折ハ伊

[illegible]
八寸ヶ月程袖のうぶ[illegible]
一石帯撥革を左ヶ[illegible]
袍の接紙縫目のと[illegible]
[illegible]
一清涼殿平絃ケ[illegible]
必[illegible]
一冠并鞠[illegible]
[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一冠
一袍 右袖とハ 真の袖
[illegible]袖とハ 袖ハ[illegible]

ふくろとハ　ふくろのこと
とんぶくとハ　ぼうとん
ちごゑとハ　ほの紙
わつさゝとハ　面服のさゝし
襠とハ　すそのこと
のぶりとハ　おしなり

一冠者ゝ事

ゆかとハ　三ゝ言葉ゝ
ほのとハ　接ゝ面ゝ出る紙ゝ
いれとハ　額ゝ

一太刀之事

鞘　さや
鍔　つば
細太刀　さげ太刀ゝ三ゝ字異ゝ
梨地前後常ゝ

平鞘　銀作物毛抜形ゝ柄ゝ植をかきこゝ之ゝ
櫃螺鈿　鞘ゝ行野木ゝ上ゝ面服
を梨地ゝ
貝入ゝ
方ゝ
清太刀　近清府用ゝ
（ゝ字異ゝ）

一豹虎皮ゝ太刀ゝ
用ゝ
一常ゝ太刀ゝ

私云翁を系にて出を所の翁
出と云名有し相を系にて
出と所の系出の出と云事
然共の具

一武家諸大夫　衣冠時之力を用る爵
始り
前代登国の為当年より地下に玉
上人役を付衣冠を方用
事有前代武家如異成し為
用て衣冠をつかはすと云

一武家之事　出雲
出雲国の為当年より一面
為国の為力を出雲所
出時分年紀他諸所の

力を用る儀を以て年紀
をたてしふ云此私人を云
所為

一指貫の紋　茅文表稽古の中
年比より相習ひ若々
量を出雲方屋敷前後を
節と出雲と言官の仁家
このもふこと云事なること
かなし

一俗家後の九或は中様に異流有し

一石帝所事　鴨川屋前
為人用し家位分年に依て或
鴨川或屋前用し他鴨川迄
方し

一袖引へぶれるを袖とゝの
なをりへぶとゝふ
一礼服 右袖の袖をかねて礼服ハ
すれ共
一綾ハ 礼服帝王の綾二帝者
ハ下ハ二帝
一公卿ハ衣紋二ゝ
五ゝへ右ゝ左ゝ左ゝ左ゝ左ゝ左ゝ
ゝゝ
私云中古ハ衣ゝ有勅ハ
二紐をハ者ハ上ゝ
一扇の骨ハ白ゝほねを常に
用ハ公卿ハ白ゝ
ゝ
一裾不掛ゝ左ゝ左ゝ左ゝ左ゝ
ゝ

二ツ折又二ツ折ハ右の服ゝ
ハ裾を掛引ハ時ハ左ゝ
一随身装束ハ大形束帯
ハ公卿ハ後の角ゝ前ゝ袖
のくゝハ束帯ハ同ゝ者ゝ右
闕腋ゝ
一冠の事ハ帝冠紐花結を対
結ゝ左ゝ左ゝ左ゝ又冠の玉
結ハ帝ハ上ゝ公卿ハ
ゝ

祝着月

一祝ノ示合ハ自上下ヘ四通ニ合ス
後の祝自下ヘ上ヘ四通ニ合ス

一下業ノ結ノ上ヘ折文ハ傳折形ニ
有り

寛文十二年壬辰有或人之裏
書今有器之者和之

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

後鳥羽院宸記

建保四年四月

抜書

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

建保四年（仁二）

四月

一日乙未天晴諸事如例辰一點着直衣出外人々多以供小時入内對面公家如常未刻出馬場先是又出外今日依為旬有蹴鞠必俗對面公家着改冠先例也八日以前令神事儀是雖雖无灌仏自九日南神事令灌佛事自九日之神事由先白川院所被仰也仍存其号者也内裏女使輩送一日神事旧例之事同之但賀茂祭女使輩自一日之神事云々公家神事自九日有之者雖如使ホカル不何自一日事也神事哉然而年来如此仍不改之間三箇以後雨脚為滂沱皆於馬場屋人々供之物

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

語亥刻名謁例
二日丙申自昨日大両諸事如例但今
日依為松尾平野祭不修佛行於事書写
延者不淳之辰三熙両休下畧
九日癸卯天晴神事行書延如例佛行
自今日依為祭神事不修之中略今日
有小除目信成任侍従又叙爵五位上其次
祭除目
少々任他人依為祭除目山城人内蔵助
関白家実公息家通元服之事
等補也中略今日関白息加首服也略
十日甲辰天晴諸事如例但佛事畧之
俯明門女院参賀茂吉田小野詣事
中畧今日俯明門女院参賀茂吉田小野
也亥刻令尚公卿殿上人少々供人業
車也
十一日乙巳天晴諸事如例中畧今夜明月
甚為清朗有行幸為去方七條院女院
雖内裏神事先例非伊勢事時於女院大切人者雖
三條殿云々雖為祭神事女院見参不
怪服不淳之参内事
被淳之抑内裏新大納言局雖為経
服我他人不依於大切人先例非伊勢
事持参云々今日関白息任侍従同
嘉例也下畧
十二日丙午天晴諸事如例但於佛行
者至于十五日祭了不供之下畧
十四日戊申天晴諸事如例神事行如
常佛事行依為祭以前畧之中略
今日餝葵事
今日餝葵於所々如例賀茂社司等
多令別進葵也下畧
十五日己酉天晴神事行如例依為賀茂
祭日不書延例也毎月十五日為精進然

奥味居交事
而依れ賀茂参居雑奥味但実不
食之已刻着直衣令對面公家必例
御幸水無瀬事
今日為去方忌幸水無瀬元来今日
祭儀不一の見れ仍令幸也午一點着狩
衣欲京車而賀茂参大儀也無沙汰
修有恐仍使発遣後令京車於七條
亭改着下品狩衣令騎馬雨剤着水
干袴亭即令着狩衣有蹴鞠中略
今日於中御門油小路辺令見物近衛
使之有奥信成京車後俄見れ
朝日丸
使左方家弟〻之別儀法手振
取物頗丸欲着鍬釜付奥袋其
間頗遅〻仍及未三點余於七條亭
令騎乗る中二點許欲下略

十九日癸丑雨降神事行如例佛事行依
為賀茂精進不修之去年八書経
狩以出之然而於書殿許者不一の憚仍
今年書之下略
廿一日乙卯天晴諸事如例今日依参賀
開日息家通直衣始事
茂社不出孫已一點開白れ具子息家
通参直衣始云〻開白皆俄東面次台
付従於前皆俄間開白俄障子南
余着立衣烏帽給釜女房持之授
女房
為幼稚只房持之の給扈従殿中
之女房持〻而示付従自狩持之退
左作法神妙也即退出開白故帰
参殿中以外畏中也六條摂政
少將之時自後白川院給所釜以件

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

例余今計也即お東面有蹴鞠已
三點出馬帯午一點入内同二點着浄
衣乗輿参賀茂社自今日七箇日可
賀茂下上七ケ日之間御参籠事
令参籠や未一點令参着先参河
於下宮奏桂献之無其謂事
合宮但不奉幣次参下宮奉幣如
例奏桂献之頗依無其謂祭以前
歟之投木審況祭以後條如無而
社習次ニ可ニ参比良木社自
西方居乗輿参上宮奉幣如下社
於上宮献神事
歟榊如常申斜着宿所即着夜
浄衣歩行宮廻参下宮次河合宮経
大田中路次第宮廻如常近習如
乗車宮廻余出上宮方居間車在
居間刻着宿所食破子即又参御前

是即前許也良久還宿女房又歩行
宮廻是例也如此
廿二日丙辰天晴己刻令宮廻乗輿昨
日奉幣如昨日但今日不歟神馬参
上宮伐同已三點還宿午三點又宮廻
今度令歩行経河合宮新路参河合
宮此方女房令宮廻之次第参社未刻
還宿例抑今年寄前中納言教[成]之
猿丸見之想三足父子於教一家令生
子云〻爾猿生子可有代可云〻
三點又宮廻大社許也如夜云
廿三日丁巳天猶晴己三點宮廻如例
被献神馬事
今日儀時歟神馬社司[繋]牽神馬於社
[破]
司馬警社司裝束政所殿上人上出西

取之社司八出之西屋方引之次供御供
必例祢宜申祝言ヨリ撤之次余退庭
宮廻所謂比良木ハ合社也余上宮必例
祢ヲ同下末刻還宿供破子上下食之
職事等余未三點歩行宮廻必例求
出清水出所仰祢宜祐綱令作松屋殊
勝泉也公卿殿上人上小西木之競馬有
與尤馬乃兼信弟也早走也酉刻還宿
即参御前良久彼候昏間祢宜祐綱取
拾燒炬付御燈火是依令彼御前之戌
二點還宿今夜女房余御寶殿宮廻
必例今日祢宜祐綱進御直舎余以
下食之先例也於宿ハ西面対中物所謂
折敷破ハ敷也

世四日戊午天晴巳刻着浄衣令宮廻
奉幣如例右兵衛督有雅稲荷守仲
俊共依解縁日未不余職限至昨日也
仍今日共余未粧進仍不入御前中門
然而余上社時尼逆必餘人神主幸平
申祝言用懸下袴衣之其謂或云之別
他法只依有其煩必氏中幸平申
云ヘ子孫定向後有其故申祢欲已子
息清平為近習之尼師申祝言時
無裾云ヘ況向後業之疑事也午三
點還着小時又余御前並比良木社
即還宿解脱休息申一距供破子必例
酉刻宮廻但大社也今日歩行宮廻之
今日祢宜小弓

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

廿五日己未天陰雨不啓己刻宮廻必例
自今日上宮御参籠事
自今日令参籠上宮也宿所長廊也
御宿所長廊事
為成宿不頗加修理欲午二點参幣如
例次参河合社次参上宮於下社伏禮
拜居輿鄙祈念定法也公々已下之馬下
下社御宿所外侍事
宮余之宿所外侍也是定宿也後河
院御参籠時宿郎是也午三點参上
宮奉幣如例敬榊於下社者移献葵
天慶行幸四月祭以後也然而献葵
其外院御幸開白参多四月祭以後
献元
有之皆以新葵云々社家存先例献
之仍不及此之於先例未勘之社家
定有所見欲其上不能勘者也午三點
還宿郎改浄衣歩行宮廻如例雨降

右衛佐如仗仗者仕笠々甚大雖奉
仕之自大田社醫王者仕之堪如此者也
也仍妻其煩者仕此役也醫王妻令
妻懐妊之時不参中門中事
懐妊仍今度着直垂俄不参中門中
其外不憚之郎社家所也於伏礼
鄙路居直河合社参逗此路令参下
社於念良久先是依便路参比良木社
歩行時用束子未一點還宿郎供饌
有在小弓會隨勝負令乱舞有其興
兩時於不出二點許令宮廻如下宮良
久還宿然於宿不解脱也多不憚之
仰慮定上下宿々狼藉禁制之先例甚
以狼藉也幾可余之参籠時敢之此儀
由社司殊怪中殊怪々々有禁制可也

廿六日庚申天晴鶏少〻石寄見之已
刻宮廻如例先依力便宜参當社次直
参河合次参下宮例令騎馬下向雖有
與今日令騎馬参大田社自其又令輿
於摘社門下輿事
於摘社門下輿宮廻次第又参御前小
時還宿于時未一點次着改浄衣令蹴
氏人被加鞠人數事
鞠依人數不足法平光平春平亦石加
之雖の神官氏人元未露拂之時参輩
也其外上北面一旬起之下品鞠足亦多
起乃鞠之其與小時入内有蹴小弓會
如昨日有乱碁次供饌酉三點参御前
良久還宿河辺螢火如星甚有其興
明後日廿八日可令下向而件日乃戌皆参
籠退出日相当戌日條敢不一の有難
壬代之法戌皆既停之仍廿九日敢一の下向
由仁令行定高知后廿九日下向家意
日殊吉日也
廿七日辛酉天晴已刻遣書於高陽院午
一點宮廻奉幣例雖宮廻令奉幣度
只大社許也但依力便宜参庁岡社次参
下宮如例直江の合也午三點還宿抑今日
上社御料参事
逢上社御料大畧如下宮但社司亦皆
悉着束帯下社多着狩衣其之於
社司者束帯當社之〻社司不足時八氏
人奉仕之折烏帽衣之〻但於今参時者社
司皆参仍氏人不参未刻歩行宮廻例
申刻還宿抑今日左幣次供御料乃
其久祝言三箇度也拍手酉刻氏人於

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

氏人於神殿射笠懸事

神殿射笠懸の令見物内〻仁神主
而令射也総四十餘人尋常の射輩
十人許其外不可思儀〻也就中六七人
許殊有真與三番許射之其後撰宣
輩八人六七番許令射之次末氏人二人
令競馬二番各一番互勝負三巡還宿
皆休息戌二點宮廻如例良久還宿郡
汝令休息于時亥二點許欲
廿八日壬戌天陰巳刻令参御前奉幣
例次参下宮其儀如先〻令下向
間於河原大雨還上宮宿一宵雨休
即又参社小時還宿至神殿今日
於神殿社司氏人等競馬七番之事
社司氏人等競馬雖社司若宗参
之各着狩衣一番太田祝宜久時勝
若宮祝部童長
二番太田祝部清平勝三番氏人李久
氏人有宣氏人注忠持
李久推祝宜能久弟也四番氏人能継
氏人春平
勝能継能久子息也今日競馬中有
與番也春平小神主章平末子也五
番氏人弥平
氏人久友勝弥平貴舟祝宜推平
嫡子也久友貴舟祝部資平子也
六番氏人忠友勝忠友小停片岡祝部
氏人氏房
忠長子也七番氏人弘保
氏人清助勝弘保久友
之兄也下品競馬也清助氏人也但隠身
参久清之一腹弟也雖不及久清今日
勝也久清今日参見物令乞京馬見
乞京馬競馬御見物之事
物之依当便宜所乞京馬見之也競馬
乃両脚乃清泥ヲ了還宿供饌戌刻
参御前小時還宿自内裏職ヲ賀彩

参申云今日雨時許左馬之陣前ヲ下品
男持剱過仍陣者令制之不美引過間
鎮西大番帰参侍従藉之事
陣者以飛礫歩之手時拔剱追之至于
日花門追入而藏人所藤賀久掛之由云
取上別功欲件犯人鎮西大番帰出云
甚以奇怪也亥一點雨皮休令休息
十九日癸亥天陰雨不降巳刻着浴衣令
祝言後神馬令引参之先只繋在然而良久後
参南前奉幣例但有神馬祈念
良久令下向欲奉幣時召床子居之而
御前念
祈念間
社以方令祈念参下宮例天晴雨止於
之便宜
令引生流木過聊小雨参河守社午一點令参
自賀茂社参南事
奉令下向同二點之声即被改左鳥
令沐浴神事仏事行水先々必下向
献貴舟御直会事
日不然今日如式貴舟御直会社司歌々
例也食之未刻着狩衣出外如例信成
持剱彼小時入内申刻出馬場如例酉刻
入内亥刻右馬例
卅日甲子天晴諸事如例今日依丙甲
子令祝言午一點着狩衣出外先是仁
和寺小僧参即退出午二點跳鞠例
歌出伏於内裏使左少弁為家也即有
返事未刻出馬場如例賀茂社司氏人
荷氏人被召射笠除事
等九人射笠除撰上手下臣也雨降仍五
番射各退出其後有笠除後雨有之
其後於馬場良久令相語有蟾目決
決戌二點入内抑今日欲跳鞠間微雨仍
皆去待処彩日吉祭義人使馬長朱
参是毎年下小雨事所勤仕也仍令

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

渡東座嗚呼多等多上下俳願法勝
寺三十講依蘭地寺住学生不参可令
延引由之〻亥二點許各謁必例両陪休
欲今日令祝言事是例也

文政三辰年霜月写之

大中大夫賀茂経平

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

文政五年十月改

雲井巻

文政九年二月一日改　架未吉

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

今上惠仁（アヤ） 御寶算 二十三 四
御德日 卯酉

仙洞兼仁（トモ） 同 五十二 三
同 同上

大宮欣子（ヨシ） 同 四十四 五
同 丑未

淑后 御年 二十六

女御禧子 ハ 十五 戌

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

左大臣 従一位 家齋（ナリ） 征夷大将軍 源氏長者 両院別當 五十五

内大臣 正二位 家慶（ヨシ） 右大将 三十四

近衛故経熙公養女 実薩摩中將女
御息所 従二位 寔子 五十四

有栖川宮故龍淵親王女
簾中 従三位 喬子（メカ） 十八 三十二

親王

後桃園院御猶子
伏見 二品 貞敬（ヨシ） 兵部卿 中十八 五十二

仙洞御猶子
有栖川 二品 韶仁（ツナ） 中務卿 王十九 四十三

同
閑院 孝仁（タカ） 式部卿 三十一

同
伏見 三品 邦家（クニ） 上野太守 二十五

桂（六）

同
有栖川 幟仁（ノリ） 式 上総太守 五十五

又
閑院 基宮（モト） 九

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

櫻町院御養子 実伏見故貞建親王男
青蓮院 一品 尊真 准三宮 八十

後桃園院御養子 実伏見故邦頼親王男
観喜心院 一品 公澄 四十七

同
聖護院 実用院故典仁親王男
盈仁 三井長吏 五十

仙洞御養子 実有栖川故文仁親王男
仁和寺 濟仁 十九

同
輪王寺 実同上
公猷 三十四

同
梶井 実同上
二品 美真 天台座主 三十

同
智恩院 大樹公猶子 実同上
尊超 二十一

同
青蓮院 実伏見貞敬親王男
無品 尊寶 二十一

同
勧修寺
志津宮 七

同
大覚寺 実有栖川韶仁親王男
附弟 慈性 十

同
一条院 実伏見貞敬親王男
欽宮 能布 七

聖護院宮兼帯
照高院

輪王寺宮兼帯
毘沙門堂

円瀧院

曼珠院

妙法院　実閑院孝仁親王男　健宮　四

門十二　輪王寺　実西園寺公満男　覚法親王　十二

鷹司故道輔平公男

光明寺前大僧正　法印　隆範　五十七

同

三寶院　高演　五十四

同

華光院　尊深　東大寺別當　三十九

近衛故経熙公男

大覚寺　亮深　三十八

同

實相院　義海　三十九

鷹司雅居故凞公男

大乗院　隆実　興福寺別當　三十二

九条故尚実公摂子　実三条治孝公末男

隨心院　大僧都　増護　十九

鷹司故凞公男

三宝院　権僧正　法印　定演　十九

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

一 東本願寺前大僧正 法印 光朗 四十三 一

二 西本願寺 光摂 四十五 二

三 大僧正 光澤 二十七 三

四 佛光寺 遷化

五 廣大寛院權僧正 法眼 摂生 四十七 六

六 興正寺 大僧都 法印 摂信 十五 七

七 佛光寺 隨念 真導 十八 八

八 專修寺 前大僧正 法印 円祥 三十五 五

九 錦織寺 無住 宅慈 三十五 九

十 東本願寺佛 法印 光澤 十四 四

十一 錦織寺 歓慈 十一

入道

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

岩倉
非参議 従三位 可汲 元貞選 六十六

三 松木
正四位下 觀業 元宗章 六十七

四 難波
宗虔 元宗職 三十四

中院
従四位上 見山 元通雅 八十五

五 小倉
従四位上 龍壽 元貞季 六十五

六 中御門
正五位下 乗実 元資文 三十九

一 准三宮 日野周長 従三位 樂山 元政 六十六

二 光雅女御言 祐貞 元重嗣

仙洞御養子
一 圓照寺 実有栖川故入道親王 無位 文成 四十六

三 中宮寺 門跡 榮暉 三十九

二 同 霊鑑寺 実伏見貞敬親王女 万志宮 宗詮 十一

四 仙洞御養女 大聖寺 御寺御所 倫宮 七歳

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

寶鏡寺 百々御所

靈華院 竹御所

光照院 常盤御所

林丘寺 音羽御所

九条故前内大臣猶子 実俊卿女 瑞龍寺 村雲御所

日尊寺

三時智恩寺 入江御所

法華寺

内女房

油小路故隆前卿女 大典侍 従四位下藤原誠子 五十七

中山故愛親卿女 宰相典侍 従五位上 愛子 二十八

勧修寺故経逸卿女 督典侍 徳子 三十九

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

井露寺国長卿女
椎曲侍　無位　姈子　十七

正親町故実光卿女
新典侍　雅子　二十

樋口故基康卿女
句當掌侍　正五位上　藤子　六十八

高松故季昭卿女
中將掌侍　従五位上　昵子　四十一

梅園実兄卿女
侍従掌侍　従五位下　兄子　三十二

官務故敬義宿禰女
新掌侍　無位　亀子　二十二

中園季隆卿女
命婦　小規　敬子　伊豫　三十六

吉田良久朝臣女
卜部孝子　伯耆　五十六

鴨脚故光増女
大命乳人　鴨増子　四十　九

賀茂鳥居大路信平女
女蔵人　應子　相模　二十　六

鴨脚秀豊卿女
幸子　越後　二十　七

幸徳井保敬女
御差大和　四十　七

隠居

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

逆故入道実長卿女
前大典侍 従三位 季子（スエ） 藤大納言 七十三 八十一

葉室故頼渋卿女
前民部卿典侍 正三位 頼子（ヨリ） 藤中納言 五十 五十四

院女房

園故基理卿猶子
上臈 従四位上 正子（実） 高野故保春卿藤子 新大納言 四十九 五十三

勧修寺故経逸卿女
従四位下 婧子（メグ） 権中納言 四十 七十四

姉小路故公聰卿女
小上臈 従五位上 聰子（サト） 葛浦小路 二十九 三十三

柳原故均光卿女
家子（イエ） 常盤井 二十三 二十七

中辻公説卿女
無位 熏子（メキ） 細井 十七 二十一

町尻故量聰卿女
中臈 従五位下 安子（スミ） 小ヶ将 十四 二十八

冨小路貞資卿女
明子（テル） 小侍従 二十七 三十一

松尾東故相養卿女
下臈 無位 養子（ノリ） 伊賀 四十五 九

賀茂林重頭卿女
信子（ノブ） 紀伊 二十二 三十六

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

春日奥田成聰朝臣女　故

大神貞子　豊後　二十九　三十三

賀茂梅生故禄久女

賀茂常子　布延　十九

下北面世嗣重孝朝臣女

御差代俱馬　六十四

梅渓故行直

源　淮子　伯耆　十九

無位

鴨　武子　蘆垣　二十

野宮泉直ノ春武ノ女

大宮女房

正三条故公道公績卿女

上臈　無位　藤　周子　冷泉　五十五

廣橋伊光公女

光子　高辻　四十三　七

難波故宗城卿女

小上臈

従子　裏辻　五十五

六条有房卿女

源　康子　穂波　三十八　四十二

特明院故基敦朝臣女

藤　敦子　藤谷　三十四

舟橋故則賢卿女

中臈

清原　臣子　左京　四十三　七

石山基陳卿女

藤　陳子　新ヶ将　四十四

高辻故福長卿女

芸官　豊子　小式部　四十二　六

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』　請求記号 832-305

ガラス使用

賀茂重秦故保韶卿女

賀茂 鍋子（イク） 右衛門佐 中十七 六十一

同 森故業久卿女 下臈

業子（ユト） 肥後 中十七 五十一

藤原助功女 故

薩 佐子（スケ） 讃岐 三十六 十

非松室秦重礼女

秦 経子（ツネ） 小弁 三十九 三十三 弾子

内豎渡故珍之朝臣女 御年寄

滋岡（シゲヨカ） 六十五

隠居

高倉故道永秀卿女 上臈 無位 佳子（ヒロ） 油小路 六十六 七十

准后女房

姉路故公春朝臣女 上臈

蔦（ミツ） 充子 婦美 二十七 心浄院

石山基陳卿女

顯子（アキ） 喜久 二十八 秋芳院

綾小路俊資卿女

源（ナダ） 理子 毛登 八十

鴨脚秀豊卿女
御乳人

実忠原故為秀女
年寄

鴨
秀子 右衛門督 四十四
信海院

為子 藤瀬 三十八
是空院

後櫻町院女房

四辻故公言卿女
浄蓮院 五十二 六
元上臈勤番落胤子

広橋故道公明卿女
玉瀧院 四十一 五
元同千種鍾子

櫛笥故隆望卿猶子 実八条故隆晴卿女
本光院 尼 六十二 六
元同藤井晴子

冷泉故為恭卿猶子 実伏原故宣條卿女
真玉院 六十五 九
元小上臈石井勝子

鴨脚故光條卿女
顕性院 七十三 七
元中臈竹内言豊子

正親町河端故謙益朝臣女
日足忠院 四十五 九
元御差代近江

前青綺門院女房

倉橋故有俊卿女
寶池院 七十七
元中臈女三位義子

前恭禮門院女房

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305
ガラス使用

橋本故実理卿猶子　実匡橋敬国采卿女
実光院　七十
元上臈押落元子

飛鳥井故雅重卿女
蓮華院　五十五
元同　花園重子

前盛化少院女房
淫子院　文中元
元中十四左馬つ伍倍子

雉良公卿裏　紀伊守約言源重倫ノ道夫真殿卿女
大改所従三位源得子
寛政六年三月十八日叙　同七年十月十七日薙髪
号芳壽院

忠良公卿裏　細川左京大夫将源齊茲朝臣卿女
改所従三位源富子
文化十三年三月十五日叙

鷹司改通公卿裏　水戸宰相源治紀卿卿女
改所従三位源清子
文政六年三月十五日叙

兵部侍郎藤原利根書

832
97
305

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『賀茂社記録. 第80冊』 請求記号 832-305

ガラス使用